湧水量の一時的な増加について（続報）

平成 25 年 2 月 14 日
独立行政法人　日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター

先にお知らせいたしました、平成 25 年 2 月 7 日（木）に深度 350m 調査坑道の掘削切羽において湧水量が増え、地下施設からの排水量が一時的に 1 時間当たり約 60 m^3 まで増加した件につきましては、止水対策を継続して行い、本日（2 月 14 日）午前 9 時現在、排水量が 1 時間当たり約 20m^3 まで低減しました。

このため、1 日当たりの排水量が、北るもい漁業協同組合との協定上の最大排水量（750m^3）を下回り、一時的に掘削土(ズリ)置場の浸出水調整池等に貯留していた排水についても通常の処理体制となりました。

なお、本件による環境への影響はありませんでした。

今後も排水量の推移を見守りつつ、止水対策を継続するとともに、工事を安全に進めていきます。

以上